



医療費節約術



「いいね！」な行動4選！

病院窓口での自己負担は2～3割ほど。残りの7～8割を健保組合が負担していますが、そのお金はもともとみなさんの保険料です。医療費が増えると保険料率が上がる可能性もあるので、医療費節約に「いいね！」な行動を！

#ジェネリック医薬品を選ぶ

先発医薬品よりも安く、先発医薬品と同じ安全性・効果があります。

先発医薬品の新たな仕組み

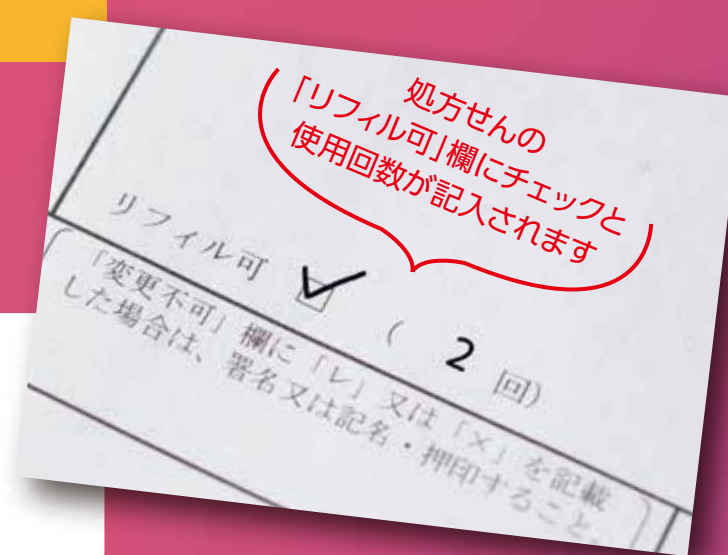
2024年10月より、患者があえて先発医薬品の処方希望したとき、ジェネリックとの価格差の4分の1を特別料金として自己負担する仕組みが導入されました。

#リフィル処方せんを使用する

リフィル処方せんは1回の診療で最大3回まで繰り返し使用できる処方せんです。症状の安定しているケースが対象で、通院費用・時間を削減できます。

希望する方は・・・

医師にリフィル処方せんの希望を伝え、判断に従ってください。
長期処方についても、希望する場合は医師に相談を。
※向精神薬や新薬など、処方に制限がある薬と湿布薬は対象外です。



#診療時間内に受診する

夜間などの診療時間外受診（コンビニ受診）は割増料金がかかります。時間内でも、早朝や夜は割増料金がかかることも。急な発熱など、すぐに受診したほうがいいか悩んだときは、電話やWEB相談を活用すると◎

電話
相談先

○大人 「救急安心センター事業」 #7119
○子ども「こども医療でんわ相談」 #8000

「こどもの救急」
WEBサイト▶



#かかりつけ医を持つ

紹介状なしでいきなり大病院にかかる追加料金がかかります（初診7,000円以上、再診3,000円以上）。まずはかかりつけ医や身近な病院を受診し、必要に応じて大病院を紹介してもらうとスムーズ。



気をつけたい多剤・重複服薬



多剤服薬は必要以上に多くの種類の薬が処方されて服用すること、重複服薬は同じ効果の薬が処方されて服用することです。同時期に複数の病院にかかっている場合に起こりやすく、本来不要な医療費がかかります。また、薬の効果が十分に得られない、副作用が起きるといった可能性も…。薬剤情報の共有に役立つ、お薬手帳やマイナ保険証を活用し、多剤・重複服薬を避けることも大切です。

こんな
行動はNG！

#同じ症状で複数の病院を受診する（はしご受診）

同じ検査や投薬が繰り返され、お財布だけでなく身体にも大きな負担です。
治療などに不安がある場合は、かかりつけ医に相談を。



けんぽお知らせ板